
 事

例会記録

十二月例会 平成十六年十二月十八日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、地方藩医における文化活動の拡がり——土浦藩医 辻元 順の例をもとに

瀧澤 利行

一、野口英世の初期の事績について

森山 徳長

一、獣医界不世出の偉人——越智勇一先生

高橋 貢

一、史的に見る薬学成立の経過と課題 (日本薬史学会創立五十周年に当たって)

川瀬 清

一月例会 平成十七年一月二十二日

順天堂大学医学部十号館四階四〇三番教室

一、齋藤茂吉における性

岡田 靖雄

一、「山崎佐の錦小路文書」の顛末

樫田 義彦

例会抄録

石原保秀・東亜医学協会旧蔵古医書 (日漢研本) の概要

小曾戸洋・天野陽介

野澤隆幸・小林健二

石原保秀 (一八七七—一九四三) 旧蔵本は東亜医学協会を経て、現在 (財) 日本漢方研究所の所有物となっているが、修理・整理・保存・利用の便から、今春、北里研究所東洋医学総合研究所に移送された。このたびその整理を終えたので概要を報告する。なお本研究は文科省科研費・特定領域研究 (2) 「江戸のモノづくり」 「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」の一環である。

一、石原保秀略歴

明治十年 (一八七七) 山梨県に生まれる。

長年銀行に勤務したというが、詳細不明。生来虚弱体質であったことから東洋医学の養生法に注目。導引の研究を行い、椰子油を原料とする塗布薬を作り、全身摩擦療法を開発。これを乾浴療法と名づけ、乾浴長生会を創立して会長となり、一般同志の指導を行うようになった。

昭和二年 (一九二七) 『皇漢名医・和漢薬処方』を鳳鳴堂書店より出版。

昭和五年 (一九三〇) 『診療夜話・死生要訣』を日本医事新報社 (あるいは鳳鳴堂書店とも) より出版。